

## 「聖徳太子」

□ なぜ聖徳太子の本を選んだかと言うと、だからです。

□ 聖徳太子は 574 年に生まれます。今から 1400 年以上前の人なので、その時代は、戦があって .../ 仏教は .../  
法律は .../ 国がしっかりできていないので .../ 今は中国になっている隋の国は .../ など、今と違うことが多いです。

私はだと思いました。/ におどろきました。

□ 聖徳太子は、高句麗や百済から技術者や僧を呼び寄せて、技術や仏教を学びました。新しいことを学ぼうと  
することは（新しいことを知ったとき / 学んだときの体験と感想、大切さやむずかしさ）だと思いました。

□ 聖徳太子は、文化の進んだ隋の国からたくさんのことを学び、制度などを取り入れました。  
（謙虚に学ぶ姿勢 / よいものを取り入れていく意欲 / 改善してよりよいものを目指すこと）だと思ひます。

□ 聖徳太子が定めた『冠位十二階』は、家柄に関係なく才能やすぐれた働きをした人が高い位をもらえる  
というものです。私も【努力やがんばりがみとめられた体験】①状況の説明：いつ・どこで・だれが / だれに  
②行動：きっかけ / 理由・何を・どうした・どのように / どのくらい・なぜ / どうして

③状況 / 心の変化：どうなったのか、どう思ったのか、何が変わったかということがあったので、  
そのことから、（うれしさ、やる気がでた / みとめられなかったらがんばれない / 成長できる / 次も頑張ろう  
と思える）だと思いました。/ という気持ちがわかります。

□ 『憲法十七条』も聖徳太子がつくりました。最初の第一条が「和をもって貴しとなす」とあります。

なかよくすることが大切だということですが、【なかよくすること / 協力することの大切さについての体験】  
①状況の説明 ②行動 ③状況 / 心の変化という体験から、

私も一番最初に「和をもって貴しとなす」と定めたのは、  
だと思いました。

□ 聖徳太子は大国である隋と争うのではなく、礼儀正しい態度で外交をするを選びました。隋と日本は  
戦争ではなくなかよくする道を選んだことは、だと思いました。

□ 『太子』とは、天皇の地位をつぐ皇子という意味ですが、すぐれた政治家であった聖徳太子は、天皇には  
ならず、政治から身を引きます。私は、だと思いました。/ だと感じました。

なぜなら、だからです。

□ これからは、聖徳太子を見習って / 聖徳太子のように  
という気持ちを持ちたい / したい / なりたい / 考えたいと思いました。